

# 平成30年度行政評価(平成29年度実施分) について

平成30年(2018年)10月2日

宝塚市行政評価委員会

# 目次

1	総評 . . . . .	P 1 ~ 4
2	「施策展開の方針」ごとの評価 . . . . .	P 5 ~ 14

## 平成 30 年度行政評価（平成 29 年度実施分）について

### 1 総評

宝塚市が行政評価に外部評価を導入して 7 年目になる。今年度も当委員会は市が行った施策と事務事業の評価について、外部の視点から評価し、改善提言を行った。市が行う内部評価は、毎年度、全ての施策と事務事業について行われているが、当委員会では、より丁寧に評価するため、今年度より 4 カ年をかけて評価対象となっている全ての施策を評価することとした。

今年度は第 5 次宝塚市総合計画後期基本計画の 9 施策分野（防犯・交通安全、土地利用、市街地・北部整備、住宅・住環境、道路・交通、河川・水辺空間、上下水道、都市景観、緑化・公園）について「施策展開の方針」ごとに外部評価を行った。

外部評価のさらなる充実に向け、今年度も昨年度に引き続き、事前に評価に関連する施設として、ピピアめふ、北雲雀きずきの森の視察を行った。現地では、運営目的や事業内容について担当者から説明を受け、理解を深めた。

個別の施策や事務事業についての指摘はあるものの、総評としては全般的に概ね適切であると判断する。

なお、昨年度に改善提言を行った施策分野について、担当部署から取組状況の報告を受けたが、引き続き、改善提言を踏まえ、施策の推進が図られることを望む。

#### (1) 総合計画に掲げる「施策展開の方針」ごとの評価について

当委員会で行った「施策展開の方針」ごとの評価結果は、別紙のとおりである。この評価結果については、次年度以降の市の施策展開に活用していただきたい。

#### (2) 内部評価について

内部評価の課題については、以前から指摘しているところであるが、改めて以下の課題を指摘する。

- ① 施策評価表を見ても全ての事務事業の内容が見えにくい。
- ② 事務事業評価表を見ても内容や成果がつかみにくい。
- ③ 適切な指標が設定できていない。
- ④ 市民との役割分担・協働についての評価表の記述が不十分で実情がつかみにくい。

こうした点を踏まえ、内部評価については、昨年度に引き続き、事務事業評価を行う職員のスキルアップ、意識の向上を目的に研修が実施され、さらに、今年度、初めての取組として、施策評価を行う職員の施策評価の充実に向けた研修が実施された。評価表の記載については、改善が見られたが、引き続き、評価に対する意識改革に取り組むとともに、評価力の向上に向け取組を進めていただきたい。

指標については、どのような指標を設定するか、目標値をどう設定するかが重要である。既に目標値に達している指標がある場合は、新たな指標の設定や目標値の再設定が必要である。また、指標だけでは施策の成果を十分に把握することが困難な場合は、進捗がわかるような記載を求めたい。

基本計画、実施計画、分野別計画、事務事業（予算）が適切にリンクしているか、社会や環境の変化を的確に捉えているか、市が取り組むべきことで見落とししていることはないか、逆に市が取り組むべき必要性が乏しいことに取り組んでいないか、課題に対して最適な手段がとられているか、時間や予算や業務に無駄はないか、市民との協働は適切かなど、行政評価の視点について外部評価での指摘を待たずに、常に突き詰めて考え、取り組んでいくことが期待される。ますますの意識と能力の向上を求めたい。

### (3) 外部評価について

今年度より、従来、3カ年をかけて対象施策の評価をしていたところを4カ年とするとともに、運営方法の見直しを行い、審議時間の充実を図ったほか、指定管理者のモニタリング結果を確認することにより指定管理業務の内容の把握に努めた。また、担当職員から、施策分野全体についての説明があったほか、質疑に対してスムーズかつ丁寧な回答があり、理解を深めることができた。

今年度は、施策評価が適切に行われているかということに重点を置いて評価を行った。歳出削減につながる行革の視点からの事務事業への指摘は少なかったが、こうした視点での評価も必要であることから、引き続き取り組んでいく。

委員の評価力は、評価の経験や熟練によっても左右される。今年度は委員の改選があり、初めて就任した委員もいたことから、模擬評価を行い、事前に評価の視点を確認、共有できるよう工夫したことは効果的であったと考えられる。

宝塚市は他市に比べ、比較的行政評価がうまく機能しており、着実に改善が図られてきていると感じる。今後、より詳細な情報を当委員会と共有し、施策や事務事業の実態を踏まえた外部評価ができるよう改善に取り組んでもらいたい。

### (4) 総合計画の推進に向けて

総合計画を推進するためには、市職員が行政評価の位置付けや役割を理解する必要がある。行政評価は、総合計画の進捗状況を把握し、見直しの必要性を判断するためのツールであり、計画が達成できているかという視点で評価を行うものである。総合計画の推進に向けて事業に取り組み、その必要性や費用対効果等について評価を行い、改善に繋げるPDCAサイクルの強化を図り、総合計画に掲げる目標の実現に向けて取り組んでいただきたい。

総合計画の推進に向けては、以下の課題を指摘したい。

- ① 宝塚市の総合計画は多くの市民参画によって策定され、他市にない特色のある「施策展開の方針」が多いが、数が多い故に、評価の作業を困難にしている。
- ② 基本計画というより分野別計画に基づいて事業が行われていると考えられる場合が見られる。
- ③ 事務事業のサイズが大きく、内容的にも、他市では複数の事務事業に分かれているようなものが1つの事務事業になっている場合も多く、施策評価表において再掲という形で多く出てきている。それぞれの「施策展開の方針」に

対応して、どれくらいの予算が付き、どのような業務をどれくらいの時間と人数で行い、どのような成果をあげているのかがわかりにくい。

- ④ 基本計画の「施策展開の方針」と分野別計画と事務事業が同じようなサイズで存在しているため、政策体系の全体と細部を見て理解し、総合調整を図ることが困難になっている。財源や人員など行政資源も限られている中、市長をはじめとする行政職員も議会も市民も政策体系の全体と細部を見て理解し、総合調整を図ることが求められる。

次期総合計画については、以上の指摘も踏まえた体系、内容となることを望む。また、施策分野の垣根を越えた新たな中長期的な政策の課題を見据え、それを次期計画の策定や現計画の推進にも生かすことを求めたい。

## (5) 実施日程

平成 30 年度の宝塚市行政評価委員会は、以下の日程で開催した。

会議	日程	内容
第 1 回委員会	7 月 10 日 (火)	前年度評価に対する市の対応状況等の説明、施設見学、模擬評価
第 2 回委員会	7 月 24 日 (火)	「道路・交通」
第 3 回委員会	8 月 8 日 (水)	「市街地・北部整備」「住宅・住環境」
第 4 回委員会	8 月 24 日 (金)	「防犯・交通安全」「河川・水辺空間」「緑化・公園」
第 5 回委員会	9 月 3 日 (月)	「土地利用」「上下水道」「都市景観」
第 6 回委員会	9 月 12 日 (水)	まとめ

## (6) 評価者（行政評価委員会）

委員会の構成については、以下の通りである。

平成 30 年度宝塚市行政評価委員会 委員名簿

(任期：平成 30 年 4 月 1 日～平成 34 年 3 月 31 日)

氏名	選出区分	所属・役職等
窪田 好男	知識経験者	京都府立大学 公共政策学部 教授
藤本 真里	知識経験者	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境 マネジメント研究部 研究員 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所環 境計画研究部門 准教授
内田 真	知識経験者	行政評価 実務家 株式会社ジャパンインターナショナル総 合研究所主任研究員
松村 孝三	市内の公共的団体等の代表者	宝塚市自治会ネットワーク会議世話役
松尾 隆寛	市内の公共的団体等の代表者	一緒にプロジェクト（地域活動団体） 弁護士
村松 杏奈	公募による市民	市民

## **(参考) 外部評価概要**

### **(1) 外部評価について**

宝塚市は、第5次宝塚市総合計画において、行政評価について外部（市民や知識経験者等）の視点に基づく意見・提案・評価を取り入れることとし、外部評価の導入を決定した。これを受け、平成24年度に、市民や知識経験者等で組織する行政評価委員会を設置し、毎年度、外部評価を実施している。

### **(2) 外部評価対象施策**

平成28年度までの外部評価は、第5次宝塚市総合計画の前期基本計画について評価を実施し、平成29年度より、後期基本計画について評価を行っている。

後期基本計画では、38の施策分野、115の「施策展開の方針」のうち、35の施策分野、103の「施策展開の方針」を当委員会の評価対象としている（学校教育、社会教育、スポーツの3施策分野については、教育委員会事務執行等評価で評価）。

### **(3) 評価方法**

評価については、担当室・課が作成した施策評価表及び事務事業評価表によって施策や事務事業の概要を把握し、ヒアリングを行う方法により実施した。

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
へ 防犯・交通安全 へ	1 防犯意識の啓発、市民と行政の連携による防犯活動を推進します	内部評価について	<p>内部評価については、指標、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当である。</p> <p>事務事業構成の適正性と総合評価の欄に、自転車ヘルメットの着用を広めるための取組を推進に向けた対応策の説明として記載する必要がある。</p>
		施策の推進・改善について	<p>ヘルメット着用の努力義務化は、取組自体は先進的であり評価するが、条例で定めるだけでは市民に広がらないため、今後普及させるための様々な取組を検討する必要がある。</p> <p>犯罪被害者支援制度は、金銭支給による支援だけでなく、心理相談や家事支援等の日常生活に関する支援措置を追加するとともに、多くの市民に制度の周知を図るために法律事務所などの各関係機関に広くPRする必要がある。</p> <p>防犯カメラは、民間の防犯カメラとの関連性を考慮し、犯罪抑止という点で市が設置することの必要性和有効性について検証する必要がある。</p>
	2 交通安全意識の啓発、安全施設の整備を推進します	内部評価について	<p>内部評価については、目標値の設定は適切に行われているが、指標の改善が必要である。各選択肢の判断については、以下の通り指摘する。</p> <p>この細施策を構成する事務事業の総合評価は全て「改善」となっているが、施策評価表の総合評価では「現状維持」となっている。評価にあたっては施策評価と事務事業評価の整合を意識して評価表を記載する必要がある。</p> <p>自転車安全利用推進員についての指標を設定する、もしくは協働の取組の中で自転車安全利用推進員をどう増やすかを具体的に記載する必要がある。</p>
		施策の推進・改善について	<p>自転車安全利用推進員は、自転車の運転マナーを啓発し、警察と協力しながら危険な運転をする人に注意喚起を促す等、地域の中で重要な役割を果たすことから、推進員の拡大に取り組んでもらいたい。</p>

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
へ土地利用 へ	1 南部地域においては、多様な都市機能を集約したコンパクトシティの形成をめざします	内部評価について	<p>内部評価については、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当であるが、指標の改善が必要である。</p> <p>「新庁舎・ひろば整備事業」は、事業費が大きく事業期間も長いため、市民に進捗がわかるように施策評価表に記載するとともに、指標を設定する必要がある。</p> <p>「花屋敷グラウンド周辺整備事業」についても、市民目線で成果が見えにくいいため、地元住民との協議や土地買収等の進捗を記載する必要がある。</p> <p>「地区計画等指定推進事業」は、まちづくり活動団体設立前の機運が高まった地区に職員を派遣し支援を行っているため、そういった職員の派遣回数や相談件数を含めた指標を設定する必要がある。</p>
		施策の推進・改善について	<p>現総合計画では、コンパクトシティの形成をめざすとしているが、どのように取り組んでいるのかが見えづらい。次期総合計画に向けてはあり方について整理する必要がある。</p>
	2 北部地域においては、緑豊かな農村集落の環境を守り、地域の活力の維持・増進をめざします	内部評価について	<p>内部評価については、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当であるが、指標の改善が必要である。</p> <p>この細施策は、北部地域の市街化調整区域を堅持し、地域の活力の維持・増進を図ることを目的にしているため、市民との協働による成果や土地利用規制の緩和による移住者数及び商業施設数等がわかるような指標を設定する必要がある。</p>
		施策の推進・改善について	<p>北部地域のPR方法については、市の広報誌やホームページを用いるだけでなく、多くの人に興味を持ってもらえるような方法を検討する必要がある。</p> <p>新名神高速道路が開通したこの機会を捉え、地域住民の主体的な活動が生まれるような取組を行っていく必要がある。</p>

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
〱市街地・北部整備〱	1 市街地における都市機能の集約や効率化、中心市街地を核とする地域の活性化を推進します	内部評価について	内部評価については、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当であるが、指標の改善が必要である。 進行状況は順調に進んでいるとの評価であるが、区画整理事業の成果指標の実績値が0となっているほか、公益施設（ビピアめふ、さらら仁川）に関する成果指標が設定されていないため、なぜ順調であるかわかるように、進行具合や今後の見通しについての記載が必要である。
		施策の推進・改善について	当該公益施設については、サウンディング型市場調査による民間事業者からの意見を参考に、今後の活性化に向けた取組を期待する。 また、市が駐車場や当該公益施設を所有することに関しては、必要性や費用対効果の観点から検討を続けることが必要である。
	2 北部地域の活性化に向けた基盤整備、地域資源の活用や他の地域との交流・連携により地域全体の魅力を高めます	内部評価について	内部評価については、指標、目標値の設定は適切に行われているが、各選択肢の判断は妥当でない。 市民との役割分担は妥当であるとの評価であるが、役割分担の見直しが必要である。
		施策の推進・改善について	北部地域の活性化に向けて、宝塚市北部地域まちづくり基本構想に基づき、交流人口増加の取組は一定なされているが、定住人口増加の取組が十分でない。新名神高速道路が開通したこの機会を捉え、地域住民の自主性を尊重しつつ住民の主体的な取組が進むよう、市の働きかけがより一層必要である。

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
〱 住宅・住環境 〱	1 安心して快適に住み続けられる住まいづくりを進めます	内部評価について	内部評価については、指標、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当である。
		施策の推進・改善について	<p>「住宅購入支援事業」は、耐震化よりも定住促進の意味合いが強いため、この細施策には合わないのではないか。また、申請件数が低調であるため、住宅購入という支給要件を無くし、より定住促進に資する制度に見直してはどうか。</p> <p>「住宅政策推進事業」は、人件費が高額であることから、コスト縮減やサービス向上のために、事業の一部を民間に委託してはどうか。</p> <p>安心して住まいづくりの実現のためには、地震以外の豪雨といった災害にも目を向ける必要があることから、次期総合計画では施策の内容について検討してもらいたい。</p>
	2 住まいを適正に維持管理し、良質な住宅ストックを活用したまちづくりを推進します	内部評価について	内部評価については、目標値の設定は適切に行われ、各選択肢の判断も妥当であるが、指標の改善が必要である。 空家については成果指標がないため、指標の設定が必要である。
		施策の推進・改善について	<p>空家については、施策の進行が順調でないことを指摘する。</p> <p>北部地域の空家については、家を再建築できる特別指定区域制度が平成30年度に創設されたが、更なる対策を検討する必要がある。</p> <p>市が設置した空き家バンクは、機能していないことから国の制度への移行を検討すべきである。また、一度空家になると利活用が難しくなるため、高齢者等にパンフレットを配布するような啓発活動を行うなど、引き続き予防的な対策を講じる必要がある。</p> <p>公営住宅については、低所得者向けの住宅供給という大きな意義がある。それを踏まえつつ、これからの社会情勢の変化や様々な市民ニーズに応じた公営住宅の管理運営に取り組むことを期待する。</p>
	3 地域特性を生かした個性ある住環境づくりに努めます	内部評価について	内部評価については、指標、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当である。
		施策の推進・改善について	<p>多くの地域で、地区計画が作られ、細施策全体の進行は順調である。</p> <p>今後も適切な制度の運用により、地域のニーズに応じた住環境づくりを期待したい。</p>

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
〱 道路・交通 〰	1 道路網の総合的な検証を行い、主要道路網整備に関する基本構想を早急にとりまとめます	内部評価について	内部評価については、各選択肢の判断は妥当であるが、指標、目標値の改善が必要である。 平成31年度に策定する道路整備プログラムについては進捗を図る指標の設定が必要である。
		施策の推進・改善について	宝塚市の既存の道路網を最大限に利用することを考えた道路網基本構想やそれを基に策定する道路整備プログラムの策定がそれぞれ遅延していることは重要な課題ではあるが、取組の方向性は間違っておらず、今後の進捗を期待したい。 また、予算確保が厳しい時代であるため、市の内部での優先順位をあげていく努力を行い、予算の確保に引き続き努める必要がある。
	2 計画的、効果的な道路整備を進めます	内部評価について	内部評価については、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当であるが、指標の改善が必要である。 「都市計画道路競馬場高丸線整備事業」の対象指標を仁川地区人口としているが、他の事務事業と同様、都市計画道路整備延長への変更を検討してはどうか。 また、「荒地西山線（小林工区）事業」の進捗に関して、2, 3年遅延している状況であれば、そのことがわかるような指標や記載をする必要がある。
		施策の推進・改善について	この細施策自体の進捗は、一般市道等の整備が一定進んでおり、また、新名神高速道路も開通するなど概ね順調ではあるが、従来からの都市計画道路整備が遅れているという課題は残っている。今後、この課題が解決されることを期待する。
	3 公共交通の利便性向上を図ります	内部評価について	内部評価については、各選択肢の判断は妥当であるが、指標、目標値の改善が望まれる。 「バス交通対策事業」「北部地域内バス路線補助事業」「山手地域内バス路線補助事業」のそれぞれの事務事業に関しては、成果指標に目標値を設定してはどうか。 西谷地域における少子・高齢化に伴う交通課題等に関する指標がなく、理解しにくいので、事務事業を含めて、指標の設定を検討してはどうか。 移動手段がない地域において住民主体で取り組む月見山・長寿ガ丘のようなバス路線について、指標を設定してはどうか。
		施策の推進・改善について	「山手地域内バス路線補助事業」については、利用者数も横ばいであるので助成金の見直し等を検討してはどうか。 採算面等で困難な課題もあると思うが、市民の平等な移動手段が確保できるようなまちづくりの実現に向けた取組を期待したい。

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
〱道路・交通〱	4 すべての人にやさしい、安全で快適な道路環境づくりに取り組みます	内部評価について	<p>内部評価については、各選択肢の判断は妥当であるが、指標、目標値の改善が必要である。</p> <p>「ノンステップバス購入助成事業」、「生活道路整備事業」に関しては、成果指標において目標値を設定する必要がある。「道路バリアフリー化整備事業」についても成果指標の数値の算出方法がわかるように工夫する必要がある。</p> <p>また、自転車に関する道路環境整備について、どのような取り組みをしているかを評価表に記載する必要がある。</p> <p>この細施策の内部評価は進んでいるが順調ではなく推進に向けて対応策が必要とこのことであるが、どの事業が順調でなく対応策が必要なのかを評価表に具体的に記載する必要がある。</p>
		施策の推進・改善について	<p>すべての人にやさしい、安全で快適な道路環境づくりへの取組を引き続き期待したい。</p>
	5 道路構造物や橋りょうの点検を適切に行い、長寿命化を推進します	内部評価について	<p>内部評価については、指標や目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当である。</p>
		施策の推進・改善について	<p>道路構造物や橋りょうに関しては、それぞれの修繕計画に基づき、適切に進捗している。橋りょう修繕については、平成26年度の道路法の改正の影響もあり、進捗が少し遅れているため、更なる進捗を期待する。市民からのアプリを用いた道路通報のシステムの取組については、費用対効果を踏まえた検討が必要である。</p> <p>国内外の事故により、社会的な関心が高まっているテーマであるため、技術面での説明を含めて市民にわかりやすく進捗を示す必要がある。</p>

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
へ 河川・水辺空間 へ	1 浸水被害が多発する区域の早期解消をめざして、総合治水の観点から、河川の改修や雨水路の整備などを推進します	内部評価について	<p>内部評価については、指標、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当である。</p> <p>事務事業構成の適正性については、推進に向けて対応策が必要としているが、どのような課題があって、どう取り組むのかを具体的に記載する必要がある。</p> <p>また、どのような取組により施策を進めるかを市民に分かるように記載する必要がある。</p>
		施策の推進・改善について	<p>西日本豪雨など毎年考えられないような災害が起こっており、そうした環境を取り巻く変化を押さえていかなければならない。</p> <p>各家庭における雨水貯留施設は、大規模災害を防ぐことは難しいが、災害時の生活用水としての利用が期待できるため、より一層普及に努めてはどうか。</p>
	2 河川・水辺空間の利活用や美化活動を推進します	内部評価について	<p>内部評価については、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当であるが、指標の改善が必要である。</p> <p>武庫川のアメニティについての市民の意識やアドプト活動の実績に関する指標を設定してはどうか。</p>
		施策の推進・改善について	<p>武庫川の河川敷は、多くのイベントや市民活動で利用されており、市民にとって憩いの空間になっている。しかし、河川敷の管理をしているアドプト団体の構成員の高齢化が進んでおり、人材の確保が必要である。例えば、大学生に関わってもらうなど、新たな人材を獲得するような取組を行い、今のアドプト団体に繋げるような仕組みを検討してはどうか。</p>

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
へ上下水道 へ	1 安全でおいしい水の安定供給を図るため、良好な水源確保や施設の耐震化などを進めます	内部評価について	<p>内部評価については、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当であるが、指標の改善が必要である。</p> <p>成果指標については、利用者の目線に立った指標が設定されていないため、満足度を示す指標等の設定が必要である。</p> <p>水道基幹管路の耐震化率と水道管路の更新率について、目標値と実績値が乖離しているものの、進行状況は順調となっており、順調であることが市民に分かるように記載する必要がある。</p> <p>この細施策を構成する上水道事業は、事務事業のサイズが大きく、様々な取組が盛り込まれており、内容がわかりにくくなっているため、事務事業を細かく分ける必要がある。</p>
		施策の推進・改善について	<p>水道管路の更新は、大きな財政負担を伴うものであり、長期的な目標に向かって計画的に進める必要があるが、そうした取組や進捗については、市民に十分な説明が必要である。</p> <p>上下水道事業は、将来的には広域連携の取組を検討する必要がある。</p>
	2 下水道施設（污水）の機能を高めるため、長寿命化や耐震化などを進めます	内部評価について	<p>内部評価については、指標、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当である。</p> <p>「水洗化促進事業」については、水洗化の助成制度の取組状況がわかりにくいいため、具体的に記載することが望ましい。</p>
		施策の推進・改善について	<p>未水洗化世帯については、更なる助成制度のPRに努め、引き続き水洗化に向けて取り組んでもらいたい。</p> <p>他都市では、下水道管路にあるマンホールの上に簡易なトイレを設置し、災害時のトイレ機能を確保するマンホールトイレを導入している。近年、自然災害が頻発していることから、防災機能を備えた公園だけでなく避難所等への設置についても検討する必要がある。</p>

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
〱都市景観〱	1 市全体の景観ビジョン（景観計画）に基づいた取組を展開し、「宝塚らしい景観」の魅力を高めていきます  2 「宝塚らしい景観」の維持・形成につながる環境づくりに取り組みます	内部評価について	内部評価については、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当であるが、コストの測定や指標については改善が必要である。 平成24年から景観行政団体になり、6年経過しているが、現在の設定されている指標では、宝塚市全体の景観施策の進捗状況がわかりにくいいため、新たな指標を検討してはどうか。 人件費については実態に即したものとなるよう、一人ひとりの職員がどのくらいその業務に従事したかを把握して記載する必要がある。 なお、「施設保全管理事業（政策推進課）」については、景観形成に資する取組（旧安田邸）と景観形成に資さない取組（旧前坂邸）が混在しているため、事務事業を分けるなど施策体系に沿って再編成し、適切な指標を設定する必要がある。
		施策の推進・改善について	「宝塚らしい景観」の維持・形成及びその魅力を高めるような取組を期待したい。
		内部評価について	内部評価については、各選択肢の判断は妥当であるが、指標、目標値の改善が必要である。 屋外の違反広告物は、インターネット普及の影響等により件数が減少していることも考えられるため、指標そのものや目標値を見直す必要がある。
	3 屋外広告物について、周囲と調和するよう適正化を推進します	施策の推進・改善について	違反広告物の撤去は、市民ボランティア団体の協力等により日々除却されているが、既存の市民ボランティア団体に頼るだけでなく、個人でも取り組めるため、新しい人を受け入れて再編成を行い、できるだけ費用をかけないような手法を検討するなど、事業内容を見直してはどうか。 また、違反広告物を撤去した際に、違反事業者が特定できる場合は、指導を行うことを検討してはどうか。

施策	施策展開の方針	指摘	まとめ
緑化・公園 緑化・公園	1 協働による地域のコミュニティ活動の場としての公園づくりを推進します	内部評価について	内部評価については、指標、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当である。
		施策の推進・改善について	公園アドプト制度は、目標値を上回る団体と協定を結んでおり、順調な様子が伺える。今後も更なる団体との協定を締結することを期待したい。 また、「公園リノベーション事業」に関しては、地域住民から好評の事業である。しかし、地方創生の交付金を財源としており、財源が無くなる平成32年度以降については、事業継続できるよう財源の確保に取り組んでもらいたい。
	2 市街地での緑化（花）を推進し、都市ブランドの向上に取り組めます	内部評価について	内部評価については、指標、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当である。 市民との役割分担の見直しが必要とあるが、なぜ必要なかがわかるような記載が必要である。
		施策の推進・改善について	「花と緑の市民活動推進事業」は、事業費が高いため一度精査してはどうか。また、緑化団体の取組を知らない市民が多いので、PRに努める必要がある。 安倉フラワーガーデンにおけるボランティアは高齢化が進んでおり、後継者不足である。活動を継続するためには、市民にこだわらずに他の団体に求める等、新たにボランティアを募ってはどうか。 安全で景観に配慮した生垣を推進するための「緑化基金活用事業」は、事業が停滞気味であるため広報誌以外のPR方法や助成要件の見直しを行ってはどうか。
	3 緑地や里山・まち山の保全・再生に取り組めます	内部評価について	内部評価については、目標値の設定は適切に行われており、各選択肢の判断も妥当であるが、指標の改善が必要である。 成果指標については、活動団体数以外の指標を設定できないか。
		施策の推進・改善について	北雲雀さずきの森は、アクセスが不便であるが、近隣の住民の散歩コースとして利用されたり、小中学校の環境学習に利用されたりと広く一般的に利用されており、憩いの場となっている。多くの世代の方に訪れてもらうために引き続き整備を進めるとともに、活動団体を増やすことや近隣の大学との連携を図るなど今後の積極的な取組に期待したい。